



新田の家で利用者の方々と懇談



高齢者の方の幸せが見つかる場所「新田の家」

テーブルに座りおしゃべりをしているおばあちゃん、ソファに座ってテレビを見ているおじいちゃん、ひたすら読書をするおじいちゃん、ここではすべての利用者が、それぞれのしたいことをして過ごしていました。特定非営利法人「新田の風」は地域全体で高齢者や認知症の方を支える仕組みづくりを積極的に行っている団体です。小規模多機能居宅介護施設『新田の家』はそのような熱い思いを持った新田の風のスタッフによって創られました。

そこで私は薬学生として、テーブルでおやつを食べていたおばあちゃんに「薬局はよく行きますか」と話しかけると、その返答は驚くようなものでした。

「病院に行くよりも薬局に行く方がいい。ちょっと体調が悪いとき、薬局

に行けばいつもの薬剤師さんが丁寧に話を聞いてくれて、薬を出してくれる。これを飲めば治るんだから、病院に行くより安上がりでいい」

これぞ地域における薬局の目指しているあり方ではないでしょうか。理想とされている国のビジョンは、ここ上田ではもう当たり前のこととなっていると思いま

私たちの進む道

今回の上田市での見学はこれまで私たちが持っていた薬局に対するイメージと異なるものでした。地域の中で薬局が市民の健康をサポートしていて、地域の住民もまた薬局に信頼を寄せていました。まさに現在全国で薬局が目指している姿であると感じました。

上田薬剤師会会長の飯島康典さんは、「現在、地域の薬局で働く薬剤師は住民の顔が見えていない」と指摘していました。ではなぜそれができていないのか。

飯島会長に上田の医薬分業が進んだ秘訣を尋ねると「情報共有」であるという答えが返ってきました。薬剤師免許を持っていれば薬剤師と名乗ること

た。

最初に述べたように、ここでは利用者の方が自分のやりたいことをやっています。私は1人でこたつに座っているおばあちゃんに声をかけてみました。穏やかな表情のそのおばあちゃんと私は一緒にコタツに入りじっくりと会話をしました。

「ここはやりたいことをやらせてくれるし、みんな親切だから幸せです」。まさに私がこの施設で感じ取ったことでした。最後はしきりに「がんばってくださいね」とおっしゃってくださいました。

この施設はこの地に住む方のために医師、薬剤師、看護師、介護士など様々

はできます。しかし、全員を医療人としての薬剤師と呼んでいいのでしょうか。あくまで薬剤師1人ひとりが様々な情報にアンテナを張り、かつそこからどう考えるかが大切です。

また、薬剤師の見るべきは住民の顔。「患者のために、地域のために」ということを意識したとき、たとえ持っている武器は違っても医師も薬剤師も看護師もその他の医療従事者も目指すものは同じです。あくまで患者のため、同じ医療人として「ものの言える関係」を築いていくことも大切だと飯島会長は

上田城下

長野県上田薬剤師会取材レポート

な職種の方が立ち上がってできたものです。その想いは利用者に届いていて、ここに来るのが楽しいと笑顔で話す利用者の声を聞き、高齢者の方のQOL向上につながっているということを確信しました。

当然、介護は簡単なことではありません。高齢者に対しては様々な注意を払い、普通では気づかないことに気を配らなければなりません。高齢者が増えてくるこれからの時代にこのような施設は不可欠であるということを改めて実感できました。

そして何より、介護が必要な方を単に「高齢者」として一括りにするのではなく、それぞれの性格や趣味、特技、生きてきた背景などを考慮した上で1人の人間としてどうしたらそのニーズに応えることができるかを考え続けることが大切であると思いました。



飯島上田薬剤師会会長と懇談

おっしゃっていました。

薬剤師が、地域住民の健康をいかに支えるか、地域医療にどう貢献していくか。薬局、薬剤師が追い求めるものはそこに尽きるのではないかと思います。

真の“かかりつけ薬局”を目指す“杏林堂薬局”



- ・借上社宅制度で1人暮らしも負担が少ない！
- ・月に1回以上のセミナーでスキルアップ！
- ・同期全員で行う研修でみんな仲良し！



杏林堂ならではのインターンシップ・見学会のお問い合わせはこちらから ...
TEL 053(453)5555(直通) e-mail saiyou-ky@kyorindo.co.jp

株式会社 杏林堂薬局

〒430-7713 静岡県浜松市中区板屋町111番地の2 浜松アクタワー13階

杏林堂ホームページ <http://www.kyorindo.co.jp>



調剤専門薬局

調剤併設型
ドラッグストア

ドラッグストア